

Kitakyushu Foreign Trade Association

GLOBAL VIEW

2012AUTUMN No.22

北九州貿易情報「グローバル・ビュー」2012年・秋号

- 言志私録 ● 「未来を信じる」大光炉材(株) 代表取締役社長 小林 滉 1
- 特 集 ● 世界の環境首都めざす北九州市 2
- 会員情報 ● 会員だより(第一交通産業㈱) / 会員紹介(㈱リョーワ) 4
- ニュース ● アジア経済情報 6
- ジェトロ ● 安全保障貿易管理説明会 / スリランカ・ビジネス投資セミナー 他 7
- 事業紹介 ● ジェトロアジア・キャラバン事業 / 九州企業・留学生交流フェア 他 8
- 貿易実務 ● データベースを用いた地域比較 10
- イベント ● B-1グランプリ in 北九州 / 西日本トータルリビングショー 12



KFTA
Kitakyushu Foreign Trade Association

北九州貿易協会
社団法人



大光炉材株式会社
代表取締役 社長

小林 滉

「未来を信じる」

個人情報だプライバシーだと騒がしく、人間関係の希薄化はとどまるところを知りません。個人主義の風潮が大勢をしめるようになったのは、いつの頃からでしょうか。

昔は人に迷惑をかけたり悪いことをすれば、見知らぬ大人から容赦なく怒られたものでした。また、学校や家庭では「人の立場に立って考えよう」と教育されたものでした。この「人の立場に立って考える」という教えは、世界に誇るべき日本の美点だと私は考えます。

弊社は昭和29年創業のもの造り企業です。まもなく創業60周年を迎えますが、幾多の厳しい時代をくぐり抜けてこられたのは、大光炉材グループ全社員による「全員野球」式経営だったから。現在、ユーザーのコストや品質に対する要求に応えるべく、社員の75%を技術開発や生産部門に投入していますが、技術開発をする上でもっとも重視するのは「現場」です。「現場」のneedsとwantsを適格に吸収し、それに応えることができれば、どのような時代でも生き残れるに違いないと私は信じています。それには、相手の立場に立って考える力や情報を共有するコミュニケーション力が必要不可欠。技術の大部分は人で成り立っているので、一人ひとりの緻密な努力の積み重ねが現場にカチッとハマる技術につながるのです。

私が常々心にかけていることがあります。それは、未来は開けると信じること。千三つという言葉聞いたことがあるでしょうか。解釈は諸説有りますが、成功するのは1000の挑戦のうち3つ。すなわち確率0.3%。それでも挑戦なくして成功はありません。また、今やらずして未来はありませんから、夢と現実を両足で踏みしめながら、皆とともに「千三つ」の挑戦を続けていきたいと思えます。

小林滉



「佐藤一斎 像」
渡辺崋山 筆

当ページの由来となった「言志四録」は、江戸時代後期、儒学の最高権威と崇められた「佐藤一斎」が40数年の歳月をかけ記した語録。小泉元総理が、審議中に「言志四録」についてふれ、知名度があがる。現代にも通じる指導者のためのバイブル的存在。

(参考:ウィキペディア)

編集部より：

小林 滉氏は本年4月、公益財団法人経営者顕彰財団（四島司理事長・現久保田勇夫理事長）が九州・山口の優れた企業家を表彰する「経営者賞」を受賞されました。

世界の環境首都めざす北九州市

「環境未来都市」および「グリーンアジア国際戦略総合

はじめに

北九州市は、昭和38年に門司・小倉・戸畑・八幡・若松の5市が合併して誕生した人口約100万人の街であり、来年には市制50周年という大きな節目を迎えます。旧5市による合併は世界的に見ても珍しい取組で、国連からも調査団が派遣されたという記録があります。

その後、高度経済成長や公害の発生と克服、少子高齢化、そして人口減少など、我が国の歩みを象徴する数々の出来事を他都市に先駆けて体験してきました。また、アジアをはじめ海外の各地とも、環境分野をメインに官民が協調した人的交流を積み重ねています。

現在では、北九州市が有する最大の資産である「市民」の力を活かしつつ、「世界の環境首都」を目指し、環境と経済の両立を目指した様々な取組を始めています。

そのような取組の結果として、昨年末に「環境未来都市」及び「総合特区」の両方に選ばれました。この「環境未来都市」及び「総合特区」は、平成22年6月に閣議決定された「新成長戦略」における「21世紀の日本の復活に向けた21の国家戦略プロジェクト」の一つに位置付けられています。

「環境」と「アジア」における本市の強みや先進的な取組を活かして地域経済の活性化を図る「緑の成長戦略」に取り組む本市において、両制度による支援措置は大きな推進力となります。

北九州市環境未来都市

(1) 環境未来都市とは

「環境未来都市」では、「環境や超高齢化などをテーマとした様々な取組を進め、暮ら

しの質が向上し、誰もが住みたくなるショールームのようなまち」を目指します。

具体的には、21世紀の人類共通の課題である環境や超高齢化対応などに関して、技術・社会経済システム・サービス・ビジネスモデル・まちづくりにおいて、世界に類のない成功事例を創出するとともに、それを国内外に普及展開することで、需要拡大、雇用創出などを実現し、究極的には、我が国全体の持続可能な経済社会の発展の実現を目指すものです。

その実現に当たっては、国内外に広く開かれたオープンソースイノベーションを前提とし、コンセプト形成、要素技術やシステムの検討・開発、実践などの各段階で、国内外の経験を共有しながら知のネットワーク化を進め、国内外への普及展開を図っていきます。

昨年秋に全国から公募され、全国から30件の提案があり、書面審査及びヒアリングなどを経て、本市提案の「北九州市環境未来都市」を含む11件が選定されました。

この選定により、関連する事業について、国から予算の集中的支援や規制・制度改革など様々な支援が得られます。

(2) 「北九州市環境未来都市」で目指す姿

北九州市環境未来都市では、「地域や都市(まち)の中で人が輝き、賑わい・安らぎ・活力のあるまち」をコンセプトに、環境、超高齢化対応、国際環境ビジネスなど様々な取組を進めることで、市民が中心の「誰もが暮らしたいまち」、「誰もが活力あるまち」の実現を目指します。

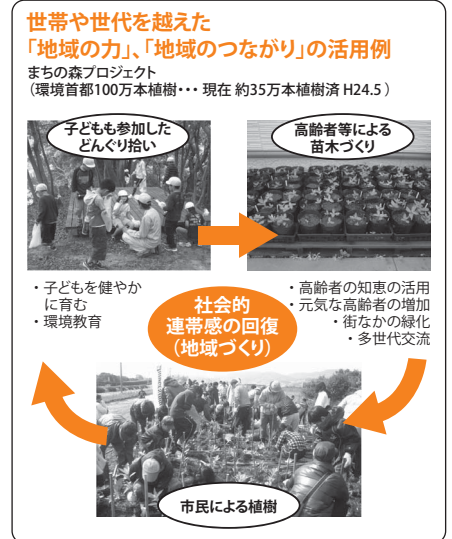
また、本市が提案した取組を実施することにより、

- ①再生可能エネルギーの導入やスマートコミュニティの取組などにより、地域でエネル

ギーを創り効率的に使うまち

- ②市民に身近な場所で健康づくりや多世代交流などの事業を通じて、元気な高齢者が増え、子育てしやすいまち
- ③アジア低炭素化センターを核として都市インフラの海外展開などにより、環境ビジネスの拠点となるまち

を創造し、他都市に先駆けて、「環境」や「超高齢化」に対応する未来の都市のあり方を示していきます。



取組例: まちの森プロジェクト

グリーンアジア国際戦略総合特区

(1) 総合特区とは

「環境未来都市」に対して、「総合特区」は、主な目的を経済面に絞り、成長戦略を実現するための政策課題解決の突破口として、先駆的取組を行う実現可能性の高い区域に、国と地域の政策資源を集中する制度です。

その特徴として、地域の包括的・戦略的なチャレンジを、国がオーダーメイドで総合的に支援することとしており、規制の特例措置だけでなく税制・財政・金融上の支援措置が盛り込まれています。また、総合特区ごとに設置される「国と地方の協議会」で国と地方の協働プロジェクトとして推進されます。

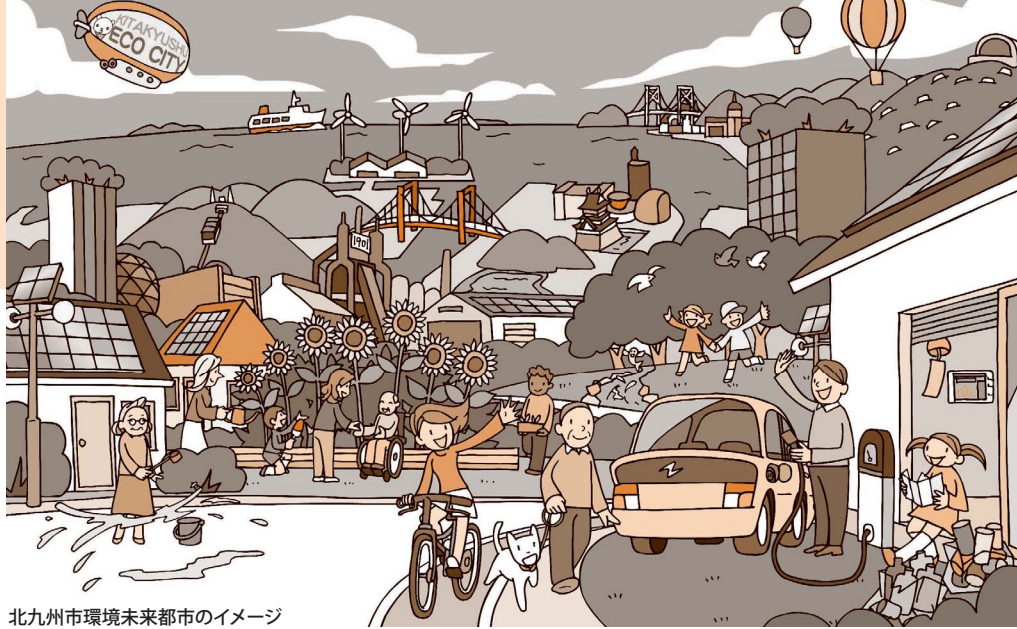
総合特区には、我が国の経済成長のエンジンとなる産業・機能の集積拠点の形成を目指す「国際戦略総合特区」と、地域の知恵と工夫を最大限活かした地域活性化の取組による地域力の向上を目指す「地域活性化総合特区」の2つのパターンがあります。

このうち、国際戦略総合特区として、本市が福岡県、福岡市と共同提案した「グリーンアジア国際戦略総合特区」を含む7地域が指定されました。



環境未来都市のイメージ

特区」への取組み



北九州市環境未来都市のイメージ

- 国際戦略総合特区に指定された地域には、
- ① 区域限定での規制や制度の特例措置
 - ② 税制上の支援措置として、投資税額控除など法人税の軽減
 - ③ 財政上の支援措置として、関係府省の予算の重点活用及び総合特区推進調整費による関係府省予算の補完
 - ④ 金融上の支援措置として、最大0.7%、5年間の利子補給

などの支援措置が期待でき、地域内外の企業がこの地域で新たな事業展開を図る上で、大きなインセンティブになると考えられます。

これまでに、上記の支援措置を活用して、市内において、株式会社安川電機及び東邦チタニウム株式会社が約90億円の設備投資を行いました。今後も、総合特区制度の支援措置を最大限活用し、新たな事業展開、企業誘致、産業集積を促進します。

(2)「グリーンアジア国際戦略総合特区」で目指す姿

グリーンアジア国際戦略総合特区では、環境分野での優れた技術と経験・実績、環境関連の企業や大学・研究機関の集積、アジア諸国との都市・地域間ネットワークなどの本市の強み(地域資源)を活かし、世界の環境課題対応先進国として我が国が培ってきた、都市環境インフラ関連産業や技術をパッケージ化してアジアの諸都市に提供するとともに、グリーンイノベーションの新たな創造を更に推し進め、アジアの活力を取り込み、アジアから世界に向けて展開し、アジアとともに成長することを目指します。

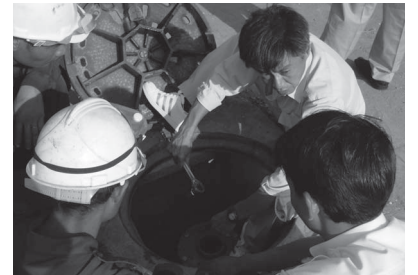
ここでは、具体的な取組のうち、海外水ビジネスに代表される、都市環境インフラの「パッケージ化」による海外展開を紹介します。

本市は、かつて経験した激甚な公害を市民総ぐるみで克服した経験を活かし、全国に先駆けて(財)北九州国際技術協力協会(KITA)を中心に多くの地域・分野で海外技術協力を行ってきました。例えば上下水道分野における専門家の海外派遣は13か国・143名、海外からの研修員受け入れは100か国以上・約2,900名に上る実績を持ちます。加えて、地域をメッシュで分けてブロックごとに流量を確認する本市独自の技術により、例えばカンボジアのプノンペン市では漏水率が72%から8%まで劇的に改善するなど、各地で成果を上げてきました。

加えて、昨年には我が国の自治体として初めて海外の水ビジネス(カンボジア・設計関連業務)の受注に成功し、その後もアジア各地で積極的な展開を続けています。

水以外にも、市内には、廃棄物処理やエネルギーマネジメントなど、都市が持つ様々な環境インフラに関する技術及び運営のノウハウがあります。複数の都市環境インフラに

関して、一つの地方自治体のエリアだけで、地域資源及び実績を多く有する街は全国でも例を見ないと思います。都市環境インフラを一まとめにし、「バラ売り」ではなく「パッケージ」で、街の仕組みを丸ごとアジアなどに輸出する取組をこれからも加速していきます。



水道の技術指導を行う市職員(カンボジア)

今後の展開

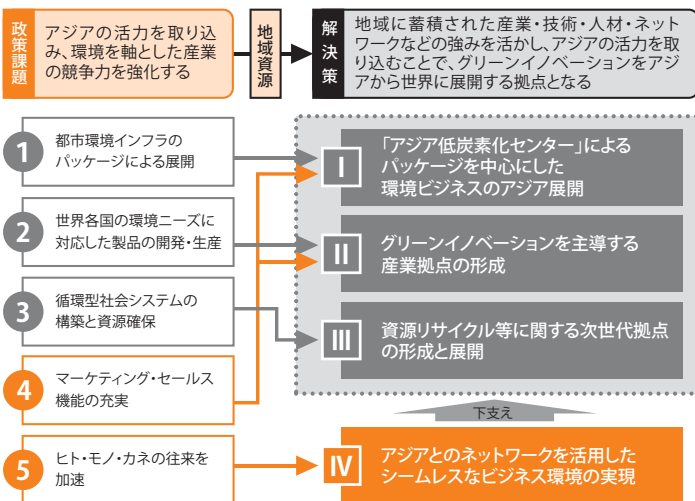
環境分野で「環境未来都市」と「国際戦略総合特区」の両方の選定を受けているのは全国で唯一、北九州市だけです。環境や高齢化など市民の生活をより豊かにする「環境未来都市」を実現する上で、「国際戦略総合特区」の制度も最大限に活用できることから、ダブル選定は非常に価値のあるものです。

しかし、「環境未来都市」も「国際戦略総合特区」も、まちづくりや経済活性化の手段の一つでしかありません。今回のダブル選定をきっかけに、市民が地域づくりや健康づくりに参加し、地域企業が新たな事業展開を行えるよう支援していきます。

また、取組を通じて得られた成果を世界の成功モデルとして国内外に発信し、本市のイメージアップを図ります。



授与式の様子



課題解決のための方策

【この記事に関するお問い合わせ】北九州市総務企画局政策調整課 TEL093-582-2156



大連での法人立ち上げまでのレポート

第一交通産業株式会社 国際事業部 部長
第一交通(大連)室内ゴルフ有限公司 董事

林 慎一郎

常識は非常識である壁

駐在所開設までの手順などは事前研修、本、ネットなどからある程度は頭にあったが、これが、その通りに行かないことを知る。不動産契約、電話・ネットの環境、そして印鑑・サインのあり方、銀行の使命と態度、すべてが「違う」。「なぜ」と考える余裕もないくらい違う。まあ、ここでの経験が後述する法人立ち上げには役に立つわけだが、日本の常識というか、自分が当たり前と思っていることを一旦すべて消してしまわないと前に進めない。「なんて日本っていい国なんだろう」。

まず情報収集。そのための日本人との人脈形成は外せない。

よく最初に中国に来た日本人が「中国の富裕層と友達になりたい」なんていう。「貴方は友達になる術を知ってるんだ、すげえー」と思わず言ってしまう。この国は常識が非常識なので、当然友達付き合いも日本風にはいかない。まずは、「先人に頼る」である。私も北九州市上海事務所岩田所長、田村副所長、JR九州相良所長など先に苦労された方々、上海伊藤忠の面々など自分が友達としてなれる方々との出会いを大切にしたい。この方々がまた次の方々、中国人を紹介してもらった。仕事だけでなく、食事するところ、日本のモノが買えるところ公私に渡り相談できる。もちろん、この流れが大連の北九州市事務所久保田所長、辛川副所長へと繋がるわけである。

中国進出に欠かせなかった人々

いろんな人たちとの出会いがあったが、この出会いがなければ成り立たなかった人物が三人。上海 蔵弁護士、大連 劉弁護士、北九州市大連事務所久保田所長[当時]。弁護士に狙いをつけたのは、当時も今も尖閣の件でデモがあったり、反日活動があったりで不安材料があったこと。それと市政府など役人や顧問弁護士として大手企業とのパイプを持っていること。まずはこの中国人と友好関係を意識。かなりの時間をこれに費やした。



「夢を見た」を現実にしていくことを決心

事業として、「バッテリー」の輸入をし、次の目標を「合板」に定めて動いていたとき、弊社社長田中より一通のメール。「うちのゴルフ練習場に行列が出来てる夢を見ました。ゴルフ市場の動向を調べてみてください」「えっ、夢・・・」。社長はよく夢に見た話をわれわれにする。それは例え話だと流していた。わざわざメールで着たので、無視できないなあと思いながら早速蔵弁護士に相談。「上海は乱立してる。やるなら冬ゴルフ場が閉鎖する東北の方で室内ゴルフはいいかも」。はあ、中国は冬はゴルフ出来ないのか・・・正直、ゴルフをやらない自分は話がよくわからない。早速大連に飛んで、久保田所長に相談。「富裕層しかゴルフしてないから、ターゲットとしては面白いし大連は今から」。劉弁護士には星海で展示場を運営する「王さん」を紹介していただき、この人が大連ゴルフ協会の会長だった。「この人なら一緒に何か出来る」帰りの車でそう思った。

半年でオープンまでをやり抜く計画。ヒト・モノ・カネも。

「何も出来ない中国」「何でも出来る中国」。よく言われることで、表は許可が出なくても、裏ではできるという意味だ。人脈は出来たし、なんとかやれるだけやってみようと思ひ、会社設立と現場設計を同時進行。手続きは劉先生にすべてをお願いし、久保田所長・辛川副所長には市政府・外弁の紹介を、また北九州市に「ゴルフツアー」協力をお願いした。何回も書類提出、その度に劉先生と商工局へ。消防・環境には最後まで苦労させられたが、何とか日本独資のゴルフ練習場が完成。完成後はゴルフ協会とがっちり手を組み、ゴルフコンペやゴルフツアーなど計画が進行中。

株式会社 リョーワ

『機械のスイッチを押すとモーターが回り始める。張りつめた空気のなか、圧力が上昇していく独特な音があたりに響きわたる。やがて油圧ポンプの音が安定し、機械は何事もなかったように正常に動きはじめた。油漏れもない。緊張していたお客様と当社スタッフに安堵と笑顔がこぼれる。そしてお客様から「ありがとう」の一言』これは修理完了後に行う試運転確認の光景です。

弊社は、希少な生物であるカブトガニの産卵地である曾根干潟に隣接する場所に事業所を構え、プレス機から観覧車まで幅広い分野に使われている油圧機械のメンテナンスを営んでいる会社です。

1968年に北九州で創業して以来44年、油圧に特化した事業を展開してきました。お客様の「休止費用(機械が停止することによって発生する費用)の削減」をモットーに、油圧機器の販売から、油圧ユニットの設計・製作、配管工事、試運転立会、メンテナンス、改造工事までを手がける油圧の専門集団です。メーカーを限定することなくこの機械メーカー、油圧メーカーの製品にも対応、「安心と感動」を提供させて頂いています。また、お客様へは自社メンテナンスを推奨し、技術・保全担当者のご要望に合わせた出張油圧講習会の実施にも取り組んでいます。

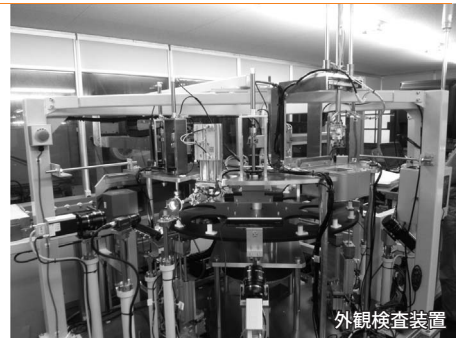
最近ではホームページを通じて北は北海道から南は沖縄まで日本全国からはもとより、日系の海外工場からの油圧に関する問い合わせや相談も多く、台湾、中国、タイ、フィリピンなどでの現地メンテナンスにも対応しております。現在では、自動車・電子部品・機械・化学・医薬・道路舗装など約900社超のお客さまに「安心」をお届けさせて頂いています。

お客様へのより一層の「安心」の提供をめざし、このたび「人の目に近い自動外観検査装置」を開発しました。

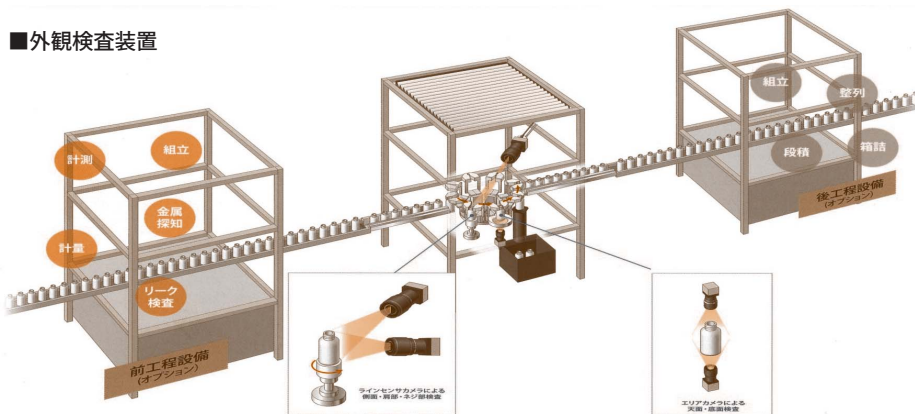
金属部品製造業等の検査工程では、一般的にキズ、バリ、カケ、打痕等の検査は目視検査で行われています。目視による検査では、作業者の検査技能が必要とされるだけでなく、人による精度のバラツキ等に課題があります。本装置は、これらの検査項目の自動化、検査精度の高度化等が可能となり、生産性の向上、品質の向上につながります。お客の要望に合わせたソフトウェアを個別開発することで、約10マイクロメートルのキズの検出が可能、検査員の目に近い自動外観検査装置を提供しております。また検査装置を製造ライン内に設置することで、不具合発生時の迅速な対応が可能となります。

人口減少に伴う生産人口の減少に加えて、これまで日本を支えてきた団塊の世代の大量退職による技能伝承の途絶え、生産拠点の海外移転により、「ものづくり日本」の地位低下が危惧されています。当社はグローバルに展開する日系企業を、メンテナンスと外観検査装置で支援するとともに、世界に誇る「メイド・イン・ジャパン製品」の品質を全力で支えていきたいと考えています。

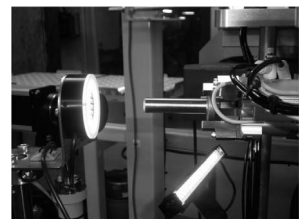
これからも北九州の地より、「安心と感動」を世界にお届け続けられるよう社員一同努めてまいります。



■外観検査装置



■環境を重視した設備開発



表面外観検査に必要な照度確保は、全てLED照明を採用



操作パネルには液晶パネルを採用

画像処理応用技術

検査システムの中核には、高性能なコントローラーを装備。様々なアルゴリズムを用いて、他社では検出が困難なケースも、高精度に検出。お客様のご要望にお応えします。

自動化技術

画像処理のトップメーカーとしてFA設備のトップメーカーとして屈指のハンドリング技術を活かした検査システムはもちろんのこと、その前工程・後行程に当たる「計量・計測・組立・段積」など、お客さまの目的にあった自動化設備にも対応し、柔軟な生産ライン構築のお手伝いをします。

自動制御技術

経験豊富なプログラマーが、コンピュータを駆使し制御システムを構築。検査前行程～後行程までの自動化だけに限定せず、生産管理システムまで視野に入れたプログラミングを展開。煩雑になりがちな生産工程(製品の生産量や品質の管理)の効率UPを協力にサポートします。

アジア経済情報

～「北九州貿易協会ウィークリーニュース」より～

■北九州貿易協会ウィークリーニュースとは

「北九州貿易協会ウィークリーニュース」は、(株)エヌ・エヌ・エーの提供するアジアのビジネス情報、北九州市の海外事務所(大連・上海)からの現地情報、国内外の経済情報、各種展示会情報などを満載して、毎週月曜日に北九州貿易協会会員の皆様にメール配信しています。

中国

韓国企業が中国から撤退：FTAで本国回帰にメリット

[経済]

山東省青島市で装飾品、雑貨などを加工貿易していた一部韓国系企業が中国から撤退し、本国に回帰したことが分かった。人件費などのコスト高騰で、中国での加工貿易がメリットを失いつつある一方、韓国が欧州連合(EU)や米国との自由貿易

協定(FTA)を発効したことで関税が撤廃、または引き下げられ、韓国での加工貿易に優位性が高まってきたことが背景にあるようだ。

中国

北朝鮮との貿易機運高まる：人件費、法人税の安さが魅力

[経済]

北朝鮮へ進出し、新たな商機を求める中国企業が増えている。距離的な“近さ”に加え、国内人件費の高騰からより廉価な労働力を求めている企業にとって、まじめで器用な北朝鮮労働者の存在は大きな魅力となっている。ただ、商環境が未整備な

北朝鮮での投資は依然リスクが大きいとみて、“様子見”する慎重な企業も多い。今後の環境整備が課題となっている。

韓国

世宗市を「第2の首都」に：交通・財政課題の解決が急務

[経済]

韓国経済の新たな発展の中心地として、世宗特別自治市が注目を浴びている。政府は、15日の国務総理室移転を皮切りに2014年までに36の政府機関が移転する同市を科学とビジネス、文化が融合する「第2の首都」として造成する計画だ。ただ、

世宗市の財政や近隣都市とを結ぶ鉄道網の構築など、解決すべき課題は山積み状態。今後は、政府と世宗市、近隣自治体がコンセンサスを形成し、これらの課題に取り組む必要がある。

タイ

全国で賃金一律300バーツ：年明けから、中小への打撃必至

[労働]

公労使の代表による労働省中央賃金委員会は5日、来年1月に全国70県の最低賃金を1日当たり300バーツ(約750円)に引き上げることを承認した。バンコクなど7都県はすでに今年4月に300バーツに引き上げており、来年から全国一律の最低

賃金が適用されることになる。6日付各紙は今回の決定を受けて、労務コストの増大により地方の中小企業の閉鎖や海外移転が加速すると懸念する産業界の声を報じた。

ベトナム・インドシナ

【特集】ベトナムを読み返す～2012年1～8月：インフレ収束、マクロ経済安定模様に

[経済]

マクロ経済が安定を取り戻している。前年2月に開始した引き締め政策により経済成長は5%未満と鈍っているものの、インフレは収束に向かい、貿易赤字はほぼゼロに近い状態。進出企業からは特にインフレについて「現在の低水準を長く続ける

ことが重要」との声が多く聞かれ、今後の動向に注目が集まる。

セミナー開催報告 安全保障貿易管理説明会(適格説明会)

北朝鮮のミサイル発射などが記憶に新しいように、近年、テロの頻発や大量破壊兵器の拡散など国際的な脅威が懸念されています。たとえ民生用であっても、兵器などへの転用が可能な製品・技術を輸出する際には、外為法等に基づいて経済産業大臣の許可を受けることが必要です。このような背景から、9月5日に

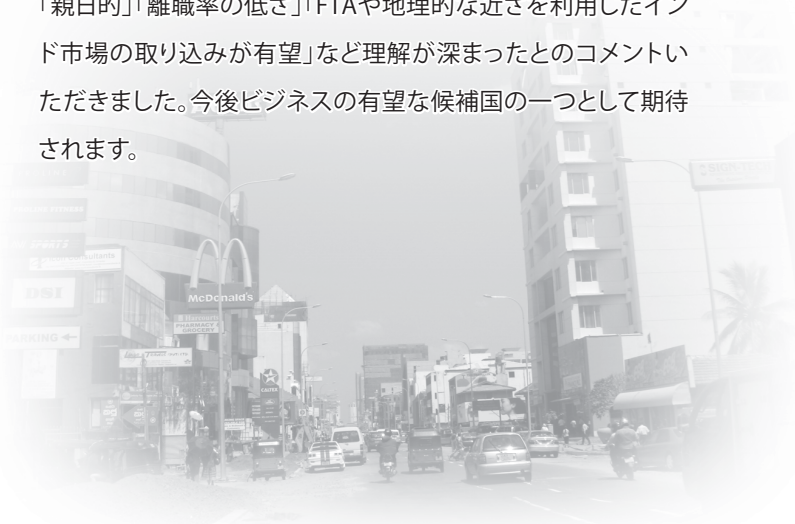
安全保障貿易管理の制度・手続きや自主的な輸出管理体制整備のポイントについて、経済産業省の安全保障貿易検査官を講師として迎えた「適格説明会」を開催しました。輸出業務に関わる企業の方には、改正点もありますので、安全保障貿易管理制度についてご確認ください。

●詳しくは、経済産業省のホームページ(<http://www.meti.go.jp/policy/ampo/index.html>)でご参考いただけます。

セミナー開催報告 スリランカ・ビジネス投資セミナー

2012年8月28日、「スリランカ・ビジネス投資セミナー～最新経済事情と日系企業の活動事例～」を開催しました。講師には、ジェットロ・コロボン事務所の崎重雅英所長と現地にソフトウェア開発拠点をもつ(株)メタテクノの大和靖博取締役を迎え、最新の経済事情、現地での企業活動の実態に基づいたスリランカの魅

力について講演いただきました。スリランカはアパレル製品が輸出の40%を占めますが、繊維産業以外の分野にも幅広い業種の日系企業が参入しているのが特徴です。また、8つの世界遺産があり観光の伸びも著しいようです。参加者からは、情報の少ないスリランカについて「アジア・欧州・中東・アフリカのハブ」「親日的」「離職率の低さ」「FTAや地理的な近さを利用したインド市場の取り込みが有望」など理解が深まったとのコメントいただきました。今後ビジネスの有望な候補国の一つとして期待されます。



JETRO 北九州 インターン体験!

西南学院大学の井本円です。今回はJETRO様で2週間のインターンをさせて頂きました。期間中は職員の方について企業訪問に同席させて頂き、パンフレット等資料の作成に携わらせて頂きました。海外を視野に入れ夢や希望に満ちた熱い方々にお会いでき、刺激的な毎日でした。更に輸出や海外展開の実務的な側面も見ることができ、より国際取引に魅了されました。今後は実践でも対応できるよう、専門分野の知識を深めていきます。

西南学院大学
 法学部 国際関係法学科 3年
 井本 円



お問い合わせ先

日本貿易振興機構(JETRO)北九州貿易情報センター(担当:酒向) TEL:093-541-6577

ジェットロアジア・キャラバン事業(中国)に 市内企業4社が出展中です!

ジェットロ主催のアジア・キャラバン事業(中国)は、中小企業の中国市場開拓を多面的に支援する目的で、中国6都市(上海、瀋陽、北京、済南、香港、重慶)を巡回し商談会や展示会を展開。さらに、上海常設ショールーム(設置期間2013年2月末まで)やネットショップ等様々なツールで中国市場開拓の可能性を探る事業です。

3年目となる今年度は、日本各都市から130社が出展、初の地方自治体の出展として北九州市も参加しています。

6月19日には上海マートにおいて上海常設ショールームのオープニングセレモニーが行われ、2日間で1,620名が来場しました。また、それに併せ上海オープニング商談会も開催され、本市からの出展企業4社のうち3社が参加。商談件数は22件で、継続案件が3件ありました。出展者からは、「中国人の生の声を聴けた。」「将来に繋がる人脈を得られた。」等、好評を博しました。

その後も北京展示会や上海常設ショールーム来場者等から、引き合い情報が届いております。

10月には香港商談会も予定され、来年1月5日~31日までは、北九州市PR展示として、上海常設ショールーム内で新しい地域ブランド「MOZIDECO(モジデコ)」の商品を展示する予定です。

中国市場へ初めの一步を踏み出す企業の一助となるべく、安心して中国での商談会や展示会にご参加頂けるよう、引き続きお手伝いして参ります。



出展 市内企業



1 カースル(株) ●不織布フィルター等



2 (株)クロスポイント ●家庭用浄水システム



3 (有)小倉クリエイション ●小倉織



4 (有)田中総本店 ●五月人形等

お問い合わせ先

北九州市貿易振興課 TEL:093-551-3605

九州企業・留学生交流フェア in 北九州

平成24年6月25日、北九州国際展示場(AIMビル3階)にて、北九州市や九州経済産業局等の主催により、「九州企業・留学生交流フェアin北九州」を開催しました。

この交流フェアは、地域企業が海外展開を進める上で、グローバル産業人材として期待される留学生と地域企業の相互理解を深め、今後のマッチングのきっかけ作りとして開催したもので、企業30団体(約50名)、留学生約100名が参加しました。

企業向けセミナーとして、長崎大学准教授宮川英樹氏が「グローバル産業人材を活用した国際ビジネス展開について」の講演を行いました。また、留学生向けセミナーとして、K-RIPのコーディネーターによる講演のほか、実際に日本企業で勤務している海外人材(元・留学生)が経験談をまじえた各社の海外展開についての事業説明を行いました。



セミナー後に行われた参加企業による合同会社説明会では、留学生は熱心に各会社のブースを回り、積極的に意見交換を行っており、海外展開に挑戦する地域企業と高度海外人材(留学生等)の今後のマッチングが期待できる有意義な交流会となりました。



グローバル産業人材に関心のある方は、産学官連携により設立した「九州グローバル産業人材協議会」の事業(インターンシップ等)をご活用ください。

●詳細は九州グローバル産業人材協議会ホームページ(<http://www.kyushu-global.jp/>)をご覧ください。

お問い合わせ先

北九州市貿易振興課 TEL:093-551-3605

アルセロール・ミタル・カザフスタン製鉄所



北九州市はJETROのRIT事業として、JETRO北九州事務所、北九州国際技術協力協会の専門家2名とともに、カザフスタンにある「アルセロール・ミタル・カザフスタン製鉄所(以下、「AMK」という。)を視察しました。

カザフスタン共和国は、旧ソ連邦の崩壊により、1991年12月に独立、世界第9位の広大な面積を有し、石油、天然ガスに加えウランやレアメタルなどの豊富な地下資源がある国です。

今回、視察したAMKは、首都アスタナから約200km南下したテルミタウという町にあります。テルミタウの意味は、カザフスタン語でテルミは「鉄」、タウは「町」を意味しており、まさに「鉄の町」だということが分かります。町の人口18万人に対して、AMKの従業員数

は約4万人であり、家族の人数を含めて考えると住民は製鉄所と何らかの関連を有していると考えられます。

AMKは、旧ソ連邦時代の1960年に操業開始し、当時はカラカダ製鉄所と呼ばれていました。この時期は、八幡製鉄所の戸畑地区で高炉稼動が始まった時期です。また、AMKは、石炭・鉬石の自給可能な資源をベースとして建設されており、八幡製鉄所が八幡村に建設された経緯と酷似しています。

AMKは、粗鋼生産能力600万t/年、製品として熱延～冷延～表面処理(錫、亜鉛メッキ鋼板)及び棒・形鋼まで幅広く生産するカザフスタン唯一の一貫製鉄所です。2000年代に入り、設備増強が行われているものの、省エネ・環境設備技術は、日本のレベルと比べて30～40年遅れており、粉塵、SOX、悪臭、及び排水などの環境問題が発生しているのですが、大平原にある工場なので汚染物が滞留することがありません。

但し、カザフスタン共和国は京都議定書に署名しており、年間5%、5年間で25%のCO₂削減を迫られているため、環境技術の導入について非常に興味があります。今後、本市企業の持つ環境技術がカザフスタンにおいて活かされることが期待できそうです。

お問い合わせ先

北九州市貿易振興課 TEL:093-551-3605(担当:井上)



データベースとその活用事例のご紹介

(株)日本統計センターでは様々なデータを収集・整備しています。例えば、日本国内では、都道府県、市区町村といった地域から町丁等の小地域にわたる国の指定統計や、独自推計の性・年齢別昼間人口、所得ランク別就業者数等のデータベースを、中国国内では、省別、都市別(副省級市を含む283地級市および4直轄市)の人口、GDP、固定資産投資額、外国資本利用状況等の統計や、独自推計の性・年代別推計人口、品目別推計消費支出額等のデータベースを構築しています。ここでは、これらデータベースを用いた分析事例や、インターネットによる当社配信サービスの事例等、様々な形態によるマーケティング分野でのデータベース活用事例を紹介していきます。

データベースを用いた地域比較

◆北九州市と福岡市の通勤状況を比較する

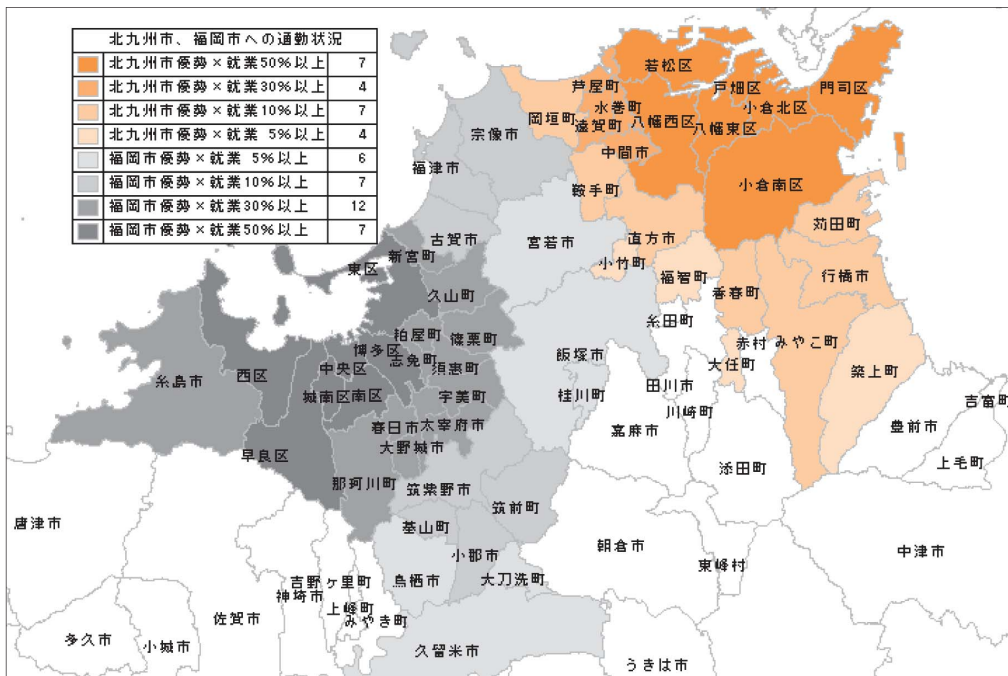
国による2010年国勢調査の集計・公表が進んでおり、最新の関連統計が入手できるようになってきました。今回は、この2010年国勢調査の集計結果を用いて、主に通勤という視点から北九州市、福岡市の状況をみていきます。

下図は、各市区町村内の全就業者数に占める両市内での就業者数の比率をみることにより、2010年時点での両市の通勤圏を示したものです。

北九州市の場合、市外では水巻町、中間市、遠賀町、芦屋町が30%圏、その他隣接市町村は概ね10%圏となっています。

一方、福岡市の場合、市東部に隣接する新宮町、粕屋町、志免町等の市町村、南部に隣接する春日市、太宰府市、那珂川町等の市町村、西部に隣接する糸島市等、全ての隣接市町村が30%圏となっていることがわかります。

両通勤圏の境界としては、各々10%圏が隣接する宗像市と岡垣町、鞍手町の境界付近でしょうか。



■北九州市と福岡市の通勤圏 (両市への通勤者比率の大小により塗り分け/各々5%以上の地域のみ表示)

右表は、同じく2010年国勢調査の中で、通勤に用いる交通手段について質問した結果です。なお、実際の調査項目のうち「勤め先・学校のバス」等の一部項目については他の項目と統合しています。

まず、福岡市の場合、北九州市よりも鉄道網が発達していることもあり、その利用がかなり多くみられます。

しかしながら、両市の間で社会基盤として大きな差はないと思われるバス網の利用についてみると、大きな差ではありませんが、ここでも福岡市の利用の方が多くみられます。結果的に、この両者を合わせた公共交通合計でみると、市全体では10ポイント以上の差があることがわかります。

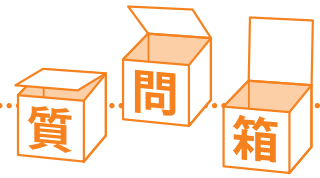
もうひとつ特徴的なことは、福岡市で自転車の利用がかなり多くみられることです。大部分の区で20%以上の利用となっており、最も少ない東区でも16%と北九州市内のどの区よりも多いことがわかります。

逆に北九州市で多く利用されているのは自家用車・タクシーで、市全体では県平均を上回る50%、最も少ない小倉北区でも38%と福岡市内のどの区よりも多いことがわかります。

■北九州市と福岡市の就業者の利用交通手段(%)

	徒歩だけ	公共交通(鉄道)	公共交通(バス)	タクシー・自家用車	オートバイ	自転車	その他
福岡県	7.3	16.1	10.7	46.7	3.9	13.6	1.7
北九州市	10.1	11.6	13.9	50.2	2.8	9.1	2.4
門司区	10.4	12.2	18.5	50.3	2.6	4.2	1.9
若松区	7.6	9.6	12.5	59.5	2.6	6.2	2.0
戸畑区	12.0	11.3	14.7	43.8	3.4	12.6	2.1
小倉北区	14.4	8.6	19.3	37.9	2.9	14.4	2.5
小倉南区	7.7	13.3	9.2	53.0	2.7	10.2	3.9
八幡東区	12.7	9.9	20.5	47.3	3.2	4.8	1.7
八幡西区	8.8	13.1	10.7	55.3	2.7	7.7	1.6
福岡市	8.6	20.2	16.8	26.7	5.2	20.8	1.7
東区	7.2	21.5	13.2	35.5	4.9	16.0	1.7
博多区	14.5	17.9	14.1	21.9	4.0	26.0	1.7
中央区	13.7	18.7	24.2	15.1	3.0	23.7	1.6
南区	7.2	18.1	18.9	26.9	6.3	20.9	1.7
西区	4.7	27.7	12.2	29.9	5.7	17.9	1.9
城南区	8.3	14.0	20.6	24.6	7.3	23.6	1.6
早良区	6.0	21.4	17.8	27.4	5.4	20.2	1.8

注. 値は各交通手段の延べ回答数を100とした構成比。



関税の納付方法について



現在関税の支払いは納付書を銀行に持参することにより行っています。この方法以外にどのような納付方法があるか教えてください。



関税の納付方法として以下のものがあります。

1.「直納」

納付書に現金等を添えて日本銀行等の納税窓口で納付する方法

2.「マルチペイメントネットワーク」

マルチペイメントネットワークを利用して電子納付を行う方法

3.「口座振替」

①関税等の納付のみに利用できるNACCS専用口座から国庫振替納付を行う方法

②納税義務者等が指定する任意の口座(リアルタイム口座)からマルチペイメントネットワークのダイレクト方式を利用した口座振替納付を行う方法

上記2の「マルチペイメントネットワーク」は、インターネットバンキング、モバイルバンキング、ATMなどを利用して納付する方法です。この方法は、銀行窓口の営業時間を気にせず納付できるほか(注)、現金等を納付のために持ち運ぶリスク等を軽減できます。「マルチペイメントネットワーク」による納付を希望する場合には、その旨を輸入申告時に「MPN利用」と明瞭に記載する方法等で届出をしていただき、審査終了後通知する納付番号等をもとに納付することとなります。

(注)金融機関によって取扱い可能時間やサービス状況等が異なりますので予めご確認ください。

左記3の「口座振替」には、NACCS専用口座を利用する方法と任意の口座(リアルタイム口座)を利用する方法があります。NACCS専用口座は、関税等納付専用口座です。この口座は、前日の残高情報を引き落とし可能額としているため、当日入金した金額は反映されませんので注意が必要です。任意の口座を利用するダイレクト方式の場合は、関税等の納付以外にも使用可能であり、また資金を積み増した場合、即時に反映することが可能です。「口座振替」(①②いずれでも)を利用する場合には、税関発給コード又は日本貿易手続簡易化協会(JASTPRO)発行の輸出入者番号を取得していることが条件となっています。また、金融機関及び輸出入・港湾関連情報処理センター(株)(NACCS)と事前に講座開設等の手続きを行い、NACCSシステムを使用して輸入申告していただく必要があります。税関発給コード又は輸出入者コードの発行、講座開設の手順については下記にお問い合わせください。

税関発給コード 03-6204-0205

(東京税関 発給コード担当)

輸出入者コード 03-3555-6031

(JASTPRO/日本貿易手続簡易化協会)

講座開設の手続 0120-794521

(輸出入・港湾関連情報処理センター(株))

「東京税関 税関相談室 貿易実務ダイジェスト 2012年6月号」より転載

第7回 B級ご当地グルメの祭典! B-1グランプリ in 北九州

会期 2012年10月20日(土)・21日(日) 10:00~16:00
会場 小倉北区 勝山公園・あさの汐風公園一帯
入場料 入場無料 ※B級ご当地グルメの購入には、イベントチケットが必要です。(価格1,000円)
主催 B-1グランプリin北九州実行委員会、愛Bリーグ
URL <http://b1-kitakyushu.jp/>

〈お問い合わせ先〉 B-1グランプリin北九州実行委員会事務局 TEL.093-533-9325

第32回 西日本トータルリビングショー

会期 2012年11月9日(金)~11月11日(日) 10:00~17:00
会場 西日本総合展示場 新館(北九州市小倉北区浅野3丁目8番1号)
入場料 無料
主催 (公財)西日本産業貿易コンベンション協会
URL <http://www.convention-a.jp/tlshow/>

西日本地域における住宅産業界の振興と発展、住まい文化の向上を目的に1981年より開催を重ねてきて、今年で第32回を迎えることとなり、西日本最大級の住宅展としての評価を受けております。

今回も前回に引き続き、『西日本国際福祉機器展』との合同開催を行い、福祉関連と融合した新しい住宅関連展示会の実施を目指します。

合同開催

第12回 西日本国際福祉機器展

〈お問い合わせ先〉 (公財)西日本産業貿易コンベンション協会 TEL.093-511-6800

出向・移籍で築く 人と企業の安心ネット

経済・産業団体、厚生労働省と連携して、全国的なネットワークで出向・移籍のあっせんに努めています。

幅広いデータベース

ハローワークや経済団体などと連携し豊富な人材情報を提供しています。

信頼と安心のかけはし

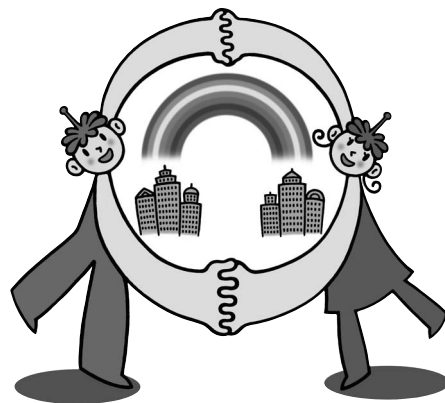
経済・産業団体と厚生労働省の協力で設立された公益法人です。

■**在職者の方もサポート** 在職者の方の職業相談・職業紹介を行っています。

■**相談等の費用は無料** 情報の提供、相談、あっせんについての費用はかかりません。

出向・移籍の専門機関
財団法人 産業雇用安定センター

ご利用時間 9:00から17:00(土・日・祝日は休業) ホームページ <http://www.sangyokoyo.or.jp/>



お気軽にご相談ください

財団法人産業雇用安定センターは、「企業と企業をつなぎ、企業と人材をむすぶ、出向・移籍のかけはし」です。

全国ネットの人材情報

企業間の出向・移籍のお手伝いを47都道府県の事務所で行っています。

福岡事務所 / 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル6階 TEL092-475-6295 FAX092-434-5272
 北九州駐在事務所 / 〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町1-10-10 大同生命北九州ビル7階 TEL093-531-7806 FAX093-531-7906